



の み が わ

2009年7月28日発行（通算第54号）

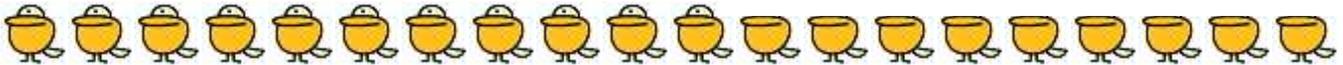
連絡先 〒146-0085 大田区久が原4-19-24

発行 大坪庄吾方 呑川の会

呑川の会 e-mail nomigawa@r00.itscom.net

呑川の会HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

高橋会員HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



第2回呑川シンポジウム盛會に終わる

2009年6月27日(土)午後1時半より、大田区消費者生活センター大集会室において第2回呑川シンポジウムが行われました。主催は呑川流域ネットワーク連絡協議会(呑川ネット)で、大田区の後援を受けました。呑川ネットは今まで数年かけて「呑川をきれいにする会」として活動してきた諸団体や個人が、今年5月に新しく呑川ネットワークとして発足してはじめての企画です。

会は前半の講演や後半のシンポジウムの2つにわけて進められました。参加者、講師、パネリスト、ケーブルテレビの関係者を含め、100名でした。

菱沼公平のまとめを大坪庄吾が編集しました。写真提供 白石琇朗

要旨を紹介します。

1. 開会の挨拶 総合司会、大坪庄吾（呑川の会代表）

2. 主催者代表挨拶 岡 禮子（NPO法人福祉コミュニティ大田）

私たちは、3年前「臭いの無い呑川を取り戻そう」とパルシステム東京南部環境委員会、呑川の会、福祉コミュニティ大田で第1回の呑川シンポジウムを開催し、「呑川をきれいにする会」を立ち上げました。その後、呑川の諸問題で大田区と話し合いの場を持つようになり、問題点を前向きに話し合っています。都市河川の問題点を取り上げた全体のネットワークが出来ればと思っています。本日のシンポには大田区の後援を頂き、会場を含めたいろいろな事に協力していただきました。今後とも大田区を中心を流れる呑川の諸問題に取り組んでいきたいと思ひます。

3. 呑川の紹介 福井 甫（呑川の会事務局長）

スライドで呑川的全流域を紹介し、現在の呑川の状態をつかんでいただきました。



会場風景



久原小学校の呑川研究展示

4. 基調講演 丸山 隆（東京海洋大学海洋科学部）要旨

呑川は人口河川であり、コンクリートに囲まれた川である。川というより排水路になっている。呑川と生き物たち」というスライドで現状を説明。これには東京海洋大学の学生でもある赤木さんの集めた資料も含まれていた。

呑川は見た目にはきれいな場所もあるが、生き物が生息するには適した川ではない。

目標であるアユを取り戻すには、

- イ) 砂利のある産卵場所が必要。
 - ロ) 呑川の河口にある海老取川の水質の浄化。
 - ハ) 途中の段差をなくす。
- 二) エサとなるコケ必要。

中流域に石を置き、時々清掃しエサとなるコケが付きやすいようにしたり、大水の時休める窪みも必要になる。

川の機能として

集水域の陸上と海を物質輸送の大動脈としての機能がある。しかし3面張りのコンクリート護岸ではその機能がない。砂礫の供給が絶えて、淵や瀬が出来ない。

生物学的視点で見ると、栄養物質を再利用する機能がない。水生生物の群落の多様化が低下し、自然のろ過装置が無くなっている。

今後これらの機能を回復させる試みはあるのか。

それには物影を増やす。蛇カゴ、布目カゴを川の中に置く。ただしこれらは目詰まりがあるので、メンテナンスが必要になる。ワンドも魚の休息地になる。

水鳥は呑川の実環境のバロメーターになる。

下流の茶色の汚れは、上流で発生した藻（アオミドロ）が枯れたものと思われる。

5. 報告 大橋一尊（東京都建設局河川部計画課）

東京都としても、河川の実環境対策を実施している。呑川の実環境対策として、地下鉄の西馬込駅からの水を呑川に流している。落合水再生センターからの再生水を流している。水量半減の際、地元の実自治体である大田区が半分を負担し従来の流量を確保している。神田川の実支流では、木炭による浄化を実施している 河川の実浚渫も実施している。

その後、東京海洋大学の丸山先生より、多摩川の実取水堰を開けたため、シジミ、シラウオが増えるなど、自然が回復したとの補足があった。

休憩後 守屋由紀枝（城南環境カウンセラー協議会環境カウンセラー）の進行で、パネルディスカッションが行われました。



(1) 呑川の実生き物たち

呑川の実会 高橋光男

スライドで魚、鳥、植物について説明があった。

(2) 呑川の実水質

稲葉明子（大田区環境保全課）

呑川の実水質（BOD、DO）では特に中流域で最悪になっている。

BOD（生物化学的酸素要求量）DO（溶存酸素量）平成18年4月にはBOD 200mg/L以上、DO 0.5mg/L以下になった時、多くの魚が浮いた。平成20年度の実水質、呑川で確認した鳥類、魚類の一覧表が配布された。

(3) 大田区の実取り組み 明立周二（大田区都市基盤管理課）

「おおた未来プラン10年」を引用しながら、大田区としても積極的に取り組む。

問題は水源が無くなった事。雨水による湧水もほとんどなくなった。

河床の勾配も少ない。越流水の実流入。

雨水貯留層、雨水浸透ますなどの設置に助成を出し積極的に取り組む。

(4) 呑川水質と生き物を調べる 猪口真美 (日本工学院専門学校)

スライドで説明。今の呑川は川と名の付く排水路。

(5) 環境学習呑川 高橋邦子 (久原小学校)

毎年4年生が呑川を取り上げて学習した。子供達には馴染みのない川で有り、イメージは汚い。上流は綺麗だが蒲田付近は汚く臭い。ゴミも多く、種類も多い。人間の都合で川が変わっていった。人の生活が川を汚している。大雨の時、町の汚れを川に流す事で、川がかわいそう。海が汚れている (実際に海を見て)。生き物は子供の心をとらえる。

水は循環している。この事を理解する様になった。

毎日の生活の中で、環境対策が出来ることを学んだ。工場より家庭から出る汚れの方が多いいことがわかった。有害な化学物質が出され、海に溜まっていつている。

自分の住んでいる町を守る事が大切だと言う事を学んだ。

(6) 神田川水系の生き物 糸井 守 (神田川ネットワーク)

きれいな川にという願いは同じである。神田川には、ライギョ、ギギなどが増え、都タナゴはいなくなった。江戸川橋付近は魚が豊富。水深が深いからと思われる。

アユはいるが、神田川生まれのアユはいない 日本橋川は汚い。井の頭池はブルーギルが多かったので駆除した。その結果モツゴが増えた。

(7) 渡部重行 (グループよみがえれ目黒川)

「よみがえれ目黒川」の講座の受講生8名で立ち上げたグループです。毎年目黒川で生物調査を行っている。目黒川にはアユはいるが、コイはいない。

(8) 流域環境作りのための環境カルテ 小林賢司 (東京工業大学大学院国際開発工学)

スライドで説明があった。川は流域に生活する人によって変化する。

データの集約と公表が大切。地図を使ったデータベースの作成。

下水の流入域での研究。研究の枠組みをどうするか。

気温分布の作成。緑地帯は気温が低い。市民と協力した環境調査が必要。

6. 質疑応答

時間がなく2名に限定された。

Q1、呑川の呼び名の説と、多摩川の清掃についての意見と、アユの住む4条件についての質問。

A、産卵場所、水質の浄化、堰のない流れ、エサとなるコケが必要。

神田川、目黒川のように迷い込むアユの可能性は多摩側があるので、可能性はないとは言えないけど、アユが住むには4条件が必要になる。

Q2、三面コンクリート張りでない土の護岸が出来ないのか。分流式の下水には出来ないのか。

呑川に外来魚はいないのか。

A、現状の流域では無理。可能だが費用的に無理。アリゲーターガーパイクが2005年頃から2007年にかけて目撃され、2008年TVにも取り上げられ、2009年にも目撃されている。

アンケートより

多くの方々よりアンケートをいただきましたが紙面の関係で一部のみ紹介します。

R さん

- ・ 今回の呑川シンポジウムも盛会で、私も楽しく参加させていただきました。ここまで準備された方々に心から感謝申し上げます
- ・ 一番楽しかったのは高橋さんの「呑川の生きもの」でした。綿密な観察力とそれを詩的にまとめた表現力には改めて感心しました。
- ・ 久原小学校の高橋先生の呑川観察によってこれからの世代である生徒達の気持がどのように変わってきたかの話も心に響きました。

- ・ 大田区の明立さんからの配布資料のうち「水質変化のメカニズム」という表は、私の興味のある事項がよくまとめられていて楽しく拝見しました。
- ・ 日本工学院の猪口先生の「目に見えない微生物」の話は、私にとって新しい知識として受けとめました。
- ・ なお東京都河川部の人の話のときは、半分あつけにとられ、少し悲しくなりました。 大田区の明立さんからの配布資料のうち「水質変化のメカニズム」という表は、私の興味のある事項がよくまとめられていて楽しく拝見しました。
- ・ 日本工学院の猪口先生の「目に見えない微生物」の話は、私にとって新しい知識として受けとめました。

E さん

- ・ 呑川の浄化にこれだけ多くの人に関心を持ち、自分達が何が出来るかと思っていることがよく分かりました
- ・ いろいろな団体の人が有効な調査を行っているように思います
- ・ これらを整理し、出来ることから皆が取む仕組みを作ることが出来ればと思います
- ・ 大田区雨水浸透施設設置は大賛成。具体的にどのくらい設置すると、どのくらい改善されるかシミュレーション出来ませんか

2009年度 呑川の会総会報告

呑川シンポジウムのあと総会が行われました。以下関係記事です。

2008年度活動報告(2008年7月~2009年6月)

印 は呑川ネットとしての行事

呑川の環境改善のための活動 呑川改修工事に対する取組み

9月19日 呑川未改修区間現地調査と会としての改修プラン作成

10月24日 都第二建設事務所に呑川の会の改修プラン申し入れ

10月28日 東京海洋大学海洋科学部 丸山助教 訪問

11月26日 都第二建設事務所の呑川改修工事その6工区工事説明会参加

(4月 呑川改修その5工区完工) (6月現在 呑川改修その6工区工事中)

6月17日 都第二建設事務所訪問

第2回呑川シンポジウム開催 6月27日 基調講演 東京海洋大学海洋科学科 丸山隆 助教

環境保全課の呑川生きもの調査に対する協力

6月9日 呑川 北之橋付近

呑川の合流式改善のための取組み

7月25日 立会川での高濃度酸素水供給施設見学

大田区との意見交換会

11月4日 2008年度秋期 5月26日 2009年度春期

講演会 11月22日 都立向丘高校 松井吉昭先生 テーマ「川」が語る東京

ウォーキング

9月27日 見沼代用水東縁ウォーキング 4月4日 目黒川花見ウォーキング

小学校の呑川学習に対する協力

11月25日 雪谷小学校呑川ウォーキング 5月22日 久原小学校呑川ウォーキング(上流部)

6月4日 久原小学校呑川ウォーキング(下流部) 6月10日 雪谷小学校呑川ウォーキング

呑川の広報活動

呑川の会掲示板の設置 9月8日 呑川道々橋左岸 醍醐倉庫前フェンス

会ニュースの発行

7月10日(50号)、10月23日(51号)、2月9日(52号)、5月1日(53号)

その他の行事

3月29日 「花見とごみ拾い in 呑川」行事参加

会ニュースに対する寄稿

呑川沿いの樹木紹介 むくげ(50号)、紅葉樹(51号)、クスの木(53号) 可児昭雄
 改修工事の呑川を生き抜く生き物たち(51号) 高橋光夫
 カワウの囲い込み獺(52号) 高橋光夫
 「呑川」の母は「多摩川」…そして「目黒川」とは兄弟(53号) 高橋光夫

会員数の動向 08年7月現在 50名中 会費納入43名、1年滞納4名、2年滞納2名

来年分と同時支払1名 退会 山田清剛さん 海老沢美智子

学生会員の会費 0の確認 規約改正 第5条(会費)第2項改正

福井事務局長の提案を出席会員が承認した。上記の会員が2009年度の世話人になることも承認した。詳細は会員名簿参照

以上

総会のさいに人事、年間計画が提案されましたが、承認し、7月13日の世話人会で細部を検討し今年度の活動計画を決めました。

呑川の会 2008年度会計報告(2008/6/28~2009/6/26)

(収入)			(支出)		
会費		92,000	通信費	切手・はがき類	37,880
参加費	行事参加費他	16,000	会報費	用紙・封筒など	15,810
礼金		0	会場費	使用料	2,290
寄付		9,207	行事費	行事实行費用	2,814
援助金		0	礼金	講師謝礼など	0
呑川テキスト		0	雑費		2,150
利子		0	呑川テキスト		0
			その他		3,708
	(今年度収入計)	117,207		(今年度支出計)	64,652
前年度繰越		302,236	次年度繰越		354,791
	(今年度合計)	419,443		(今年度合計)	419,443

次年度繰越内訳	現金	12,757
	預金通帳	138,814
	郵便振替通帳	203,220
	(合計)	354,791

2009年6月26日

上記のとおり報告します。

会計

高橋 光夫

2009年6月26日

上記のとおり相違ありません。

会計監査

白石 琇朗

総会出席者により承認されました。

呑川の会年間計画

2009年6月 呑川シンポジウム 呑川の会総会
7月 13日世話人会 ニュース発行 20日すぎ
8月 定例会 8月19日(水)18時半 東京工大石川台校舎4号館地下
9月
10月 3日和泉川ウオーク 24日 雪谷文化センター依頼講座実施
ニュース発行 白石・菱沼 定例会
11月
12月 定例会
1月 ニュース発行 福井
2月 定例会
3月
4月 3日(土) 残堀川ウオーク
定例会 ニュース発行 工藤 エコフェスタ2月21日 山王小
5月 小学校ウオーク
6月 総会 小学校ウオーク
講演会 高橋会員が検討案を8月定例会に提案 ウォーキングは年間計画参照
その他 大田観光協会より依頼事項 観光地図共同編集 年間計画に追加する予定。

2009年度の役割分担

今年度より 世話人会が次の業務を分担し実施する(企画から終了まで)

呑川の改修工事についてする対応	福井
呑川掲示板の掲示	工藤
ホームページの維持	工藤
総合学習「呑川」総括 学校との窓口 ウォーキング手引き作成等	大坪
ウォーキングの企画・推進 呑川 横浜和泉川 残堀川	白石
講演会の企画推進	高橋
エコフェスタ参加について 参加する 2月 山王小学校	
呑川長期計画 呑川に関する情報・データの集約	小林
水循環 街作りとも関連させ8月定例会に提案	小林
呑川工事関係の集約	小林
呑川ネット定例会参加	呑川ネット世話人ほか
大田区との意見交換会に関する業務を含む	
世話人会・定例会、総会の開催・連絡	大坪
会員アンケート	福井

大田区との意見交換会報告

ニュース発行時期の関係で旧聞になりますが、今年度上期の呑川流域ネットワーク連絡協議会と大田区との呑川に関する意見交換会の内容を報告いたします。 実施時期 5月26日

出席者 大田区 東平環境保全課長、杉村都市基盤管理課長ほか

呑川ネット 岡代表 ほか 区議員 奈須議員、森議員、 総計 28名

主な内容は前回(昨年11月)の席上、当会から提案・要望していた課題についての大田区からの回答

です。 回答は文書でされていますが 概略 次のとおり。

1. 呑川の西蒲田地区の河床構造の調査 本年度に予算化し、実施する予定である
2. 親水階段の設置 河川断面を狭めての実施は不可能であり、現河川断面の外側に設置することは多額の費用もかかり、地域住民の意向も踏まえての検討課題である。
3. 呑川未改修区間の改修計画に対し東京都に大田区の要望を文書により明確に伝達
従来から要望してきており、改めて文書で提出することは考えていないが、当会の要望は二建に伝えてゆく
4. 臭気測定体制の整備と被害の程度に応じた対策の推進
パトロールによる調査をしていたが、昨年度臭気測定器を購入し、硫化水素臭の測定開始 実態把握のためモニタリングをしたいので、協力して欲しい。 また高濃度酸素水導入事業を開発したい
5. 呑川に案内板の設置 呑川緑道整備の中で、地域住民とともにサイン整備を検討したい
6. 呑川を風の道とするまちづくりの推進 呑川緑道の整備事業により呑川の緑化を図り、呑川を風の道として、ヒートアイランド現象対策としても、今後は二建の呑川緑化工事と連携して整備する

全体的な印象としては大田区も誠意をもって対応されたと思います。その後早速

4. 臭気測定体制のモニタリングに対し、環境保全課から具体的な検討への協力依頼がありました。今後とも率直かつ建設的な意見交換ができることを期待します。 (福井 甫 記)

呑川沿岸（工大橋～河口）の樹林

ノウゼンカズラ 可児 昭雄



梅雨は明けたが、しばらく鬱陶しい季節が続いている。この時期に鮮やかな橙黄色で古くから漢方薬として、中国より渡来したつる性で建物等に絡みついて夏から秋口まで咲き続ける「ノウゼンカズラ」である。(別名コノウゼンカズラ)は

ノウゼンカズラは
ノウゼンカズラ科の植物である。
つる性落葉木本 中国原産産

参考文献

- 「四季の花ごよみ」 講談社
- 「樹木大図鑑」 北隆館
- 「花の園芸大百科」 主婦と生活社

定例会のお知らせ ぜひ参加ください。

日時 8月19日(水) 18時半 会場 東京工大石川台校舎 4号館 地下
報告・話し合い

呑川の情報はどうまとめるか 中間報告 小林賢司

年間計画の具体化 とくに和泉川ウオーキング ニュース次号の内容など
詳細は別紙の地図つき案内図をご覧ください。

あああ…………… つかれた でも楽しかった！

久原小、雪谷小の呑川ウォーキングに協力

今年も久原小学校、雪谷小学校のいずれも4年生の呑川ウォーキングに呑川ネット・環境学習研究会とともに協力しました。

久原小学校は全員で4クラス120名。工大橋から久原小学校までの上流部分と、久原小から河口までの中・下流部分と2日間に分け実施、雪谷小学校は3クラス90名で雪谷小から JR 蒲田駅までを半日行程。

両校の子どもたちには呑川は通学路などですぐ身近な川でありながら、普段は殆どの子どもにとって全く興味もなかった川ですが、上流から中流、下流と川の姿が変わり、よくみれば川の中にコサギなどの野鳥を始め魚、亀もいてまんざら捨てたものでもないと感じたのではないのでしょうか。特に道々橋下流の下水道横断地点に仕掛けた「魚キラー」にハゼの一種のスマウキゴリが100匹近くいるのを見たときは子どもたちは興奮ぎみでした。

久原小学校では総合学習で「呑川」を取上げられており、その後も去年は子どもたちの呑川 Q&A 会に呑川の会は回答者として参加しました。子どもたちは更に自主的に研究を進め、その結果を今年2月の久原小フェスタで発表しています。

その全過程を同校の高橋邦子先生は今年6月の呑川シンポジウムで発表してくださいました。その感想は、あるシンポジウム参加者の次のアンケート回答「久原小学校の高橋先生の呑川観察によってこれからの



世代である生徒達の気持がどのように変わってきたかの話は心に響きました」のとおりだと思いますし、私たちのお手伝いがこのように生かされているのは大変うれしく思います。(福井 甫 記)

呑川河口での観察

案内する可児さんと 雪谷小の子どもたち



【 編集後記 】

2009 年度の呑川の会の総会が終了し、世話人の役割分担をはっきりさせた新体制が発足しました。呑川ネットとによる共通の取り組みとして企画した「呑川シンポジウム」も成功し、今年度の年間計画にもとづいて会をみんなで運営していきたいと思います。今号は、諸行事の報告号になりましたが、呑川についての随想、意見記事も今後協力ください。 編集 大坪庄吾